

4 道路整備

～歩行者と車が共存できる交通環境のまち

<基本計画の目標>

都市計画道路については、都市拠点の整備事業や鎌倉市交通マスタープラン等との整合を図るとともに、都市防災も考慮した道路網について検討し、整備にあたっては、優先順位の高い順から環境に留意し、効果的かつ効率的に進めます。

生活道路については、歩行者等の安全確保を重視した交通環境の向上をめざし、道路整備を図ります。

道路整備の実施に際しては、バリアフリー化や都市景観を考慮した整備に努めます。

道路管理の情報管理システムの構築を図ります。

<目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
歩道整備延長距離(+)	1年間の歩道整備総延長距離 (歩道幅員2メートル以上)	22.2 km	22.3 km	22.4 km	22.4 km	22.4 km	24 km	26 km
都市計画道路整備率(+)	都市計画道路計画延長のうち整備済み区間の割合	33.4 %	35.5 %	35.5 %	33.0 %	33.0 %	34 %	35 %
歩道・道路整備の達成状況(+)	日常利用している歩道や道路の整備が、進んできたと感じる市民の割合	14.3 %	14.4 %	14.9 %	17.3 %	14.4 %	24 %	44 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	14.4 %	12.4 %	11.3 %	15.2 %	13.3 %	24 %	44 %

<これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価: ◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

・まちづくり政策部

<昨年度からの課題>

・都市計画道路の見直しについては、37路線を対象に「存続・変更・廃止・追加」のいずれかに分類・検討する中で、本市の道路特性を活かした検証が求められています。

<進捗>

・見直し検討資料の作成、関連各課及び関係機関との調整を行いました。また、今後予定している「市民が抱えている問題や路線に対する意見等の把握」を行うために必要な準備作業として、個別路線の検証及び見直しの方向性のたたき台の作成を行っています。

<課題>

・「市民が抱えている問題や路線に対する意見等の把握」を行うにあたって、市民へのわかりやすい情報提供の方法と、回答しやすい意見の提出方法を確定させる必要があります。

担当部の評価



・都市整備部

<昨年度からの課題>

・大幅な道路骨格の変更はできない中で、歩きやすく事故の起こりにくい道路整備をどう進めるかが課題である、また鎌倉の道路の特性を生かした道路規制や整備を推進する必要がある。

<進捗>

歩行環境の改善が必要な路線の改良や都市計画道路の整備については、いずれも用地取得の困難性などから、進捗していない。

<課題>

歩道や都市計画道路の整備などが必要とされる路線がある中、一方で道路の維持修繕についての需要も高まる状況もあり、整備についてのバランスを考慮する必要がある。

担当部の評価



<今後の展開(取組方針)>

・まちづくり政策部

・個別路線の検証及び見直しの方向性を整理するとともに、パブリックコメント等の手法を利用し、市民にわかりやすい方法で意見等の把握を行っていきます。その後、交通量の検証と総合評価等の作業を経て、見直し案を作成していきます。

・都市整備部

・実施計画の見直しの中で、歩道整備などについて、実施可能な手法などを検証していく。

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・駅周辺における交通量の多い箇所における改善に一定の効果が出つつある。ただし効果は限定的であると考えられる。
- ・今小路通りの拡幅整備に当たってはバリアフリー化や既存樹木の保存等、市民委員を交えた協議会からの意見も反映しながら実施したのは評価できる。
- ・安心歩行エリアの整備及び移動円滑化基本構想に基づく特定経路の整備については詳細な整備計画を立て進めているのは評価できる。



課題・提言

- ・満足度指標は上昇傾向にあるものの10%台で市民満足度が一番低い数値である。道路整備の市民満足度は総合交通よりもさらに下がり20%に達しない。狭い小路は鎌倉の景観の一つではあるが住環境としての不便さや危険性については、観光と市民の生活の維持との勘案が必要になってくるであろう。
- ・市内の渋滞は相変わらず続いており、抜本的な改善はできないにしても、警察等と連携を図り、右折路線の確保、一方通行の検討などきめ細かな対応を検討されたい。
- ・大幅な道路骨格が変更できないなか、歩きやすく事故の起こりにくい道路整備をどうすすめるかが課題である。